

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉱業振興費

事業名 新伝統工芸品デジタル促進実践研修事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 地域産業課 伝統産業振興係 電話番号：058-272-1111 (内 3095)

E-mail：c11355@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,000 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	8,000	0	0	0	0	0	0	0	8,000
決定額	8,000	8,000	0	0	0	0	0	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

本県の伝統工芸品を取り巻く状況は、近年の生活様式の変化や安価な輸入品の増加等により需要が低迷する中、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、更に深刻となっている。

コロナ社会において、伝統工芸品産業の振興を図るためには、各事業者がデジタル技術を活用し、販路開拓に取り組むとともに、伝統的工芸品の魅力を広く発信していく必要がある。

一方、伝統工芸品の従事者の多くは高齢化でデジタルに関する知識が乏しく、SNSを活用した情報発信が技術的に困難という現状がある。

また、県内には優れた伝統工芸品産業があるにも関わらず、それらを一体的にPRできるコンテンツがないことから、事業者がデジタル技術を習得したとしても、十分な情報発信ができない可能性がある。

そこで、県内の伝統工芸品産業の従事者を対象にデジタルリテラシー研修を実施することで、デジタルに関する基礎知識の底上げを行うとともに、情報発信のためのデジタルコンテンツ (PR動画) を作成し、デジタル化の取組みを支援することで、伝統工芸品の産業振興を図る。

(2) 事業内容

伝統工芸品産業に携わる職人等を対象にデジタルリテラシー研修を実施し、E C 導入や SNS 等を活用した情報発信に必要なスキルの習得を促すとともに、情報発信に活用するためのデジタルコンテンツ（PR 動画）を作成する。

1) デジタルリテラシー研修の実施

・伝統工芸品産業に携わる職人等を対象に、デジタルを活用した SNS 等を活用した情報発信や、E C の導入に必要なスキルを身に付けるための研修を実施する。

2) デジタルを活用した県内の伝統工芸品産業の情報発信

・岐阜県の伝統工芸品を一体的に PR するためのデジタルコンテンツ（PR 動画）製作する。

(3) 県負担・補助率の考え方

本県のモノづくりの原点である伝統工芸品等の振興を図る取組みとして県の負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	7,622	動画制作費、研修開催費
業務旅費	239	業務旅費
需用費	69	消耗品
役務費	70	通信運搬費
合計	8,000	

決定額の考え方

財源については、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充当します

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(1) 地域の魅力の創造・伝承・発信

④ 「ぎふブランド」づくり

(2) 他県の状況

- ・ デジタルコンテンツについては複数の都道府県で制作・発信している。

(3) 後年度の財政負担

- ・ 単年度事業として措置予定。

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・ 本県の伝統工芸品の振興を図るとともに、伝統工芸品や郷土工芸品の産地におけるデジタル促進事業を展開し、伝統産業分野におけるDXを推進する取組みの支援を実施するものであり、県が事業主体となることは妥当である。

事業評価調査書(県単独補助金除く)

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、伝統産業従事者のデジタル化を支援し、産業の活性化を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R3 末)	R2 年度 実績	R3 年度 目標	R4 年度 目標	終期目標 (R4 末)	達成率
						%
デジタルリテラシー 研修受講者数	0 名	-	-	30 名	30 名	-

○指標を設定することができない場合の理由

--

(これまでの取組内容と成果)

令和	・事業の活動内容(会議の開催、研修の参加人数等)
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加 指標① 目標: ___ 実績: ___ 達成率: ___%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標: ___ 実績: ___ 達成率: ___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 人々の生活スタイルや嗜好の変化に伴い、本県の伝統的工芸品の需要は著しく縮小している。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 伝統工芸品は、現在のモノづくり産業の原点であるとともに、本県の伝統や文化を他県や外国へアピールする象徴であり、失ってはならない本県の貴重な宝であるため、引き続きその魅力をPRするとともに、デジタル化等の需要拡大にかかる支援を行う。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	